

2月の銅マーケットレポート及び3月の見通し(上)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



予想レンジ

LMEセツル	4400-4800ドル	●	変わらず
建値	530-610円	●	変わらず
為替	111~117円 (1か月間TTM)	↑	円高

■概況

前半は、米NY連銀のダドリー総裁が昨年12月の米利上げ以降、金融状況は著しくひっ迫していると指摘。世界経済見通しの悪化やドル高は米経済に悪影響を及ぼすと発言した事から利上げ観測が後退するなどのプラス材料もあったが、米FRBイエレン議長、中国の通貨政策をめぐる不確実さと原油市場の不確実さがあると懸念を表明した事、1月の米ISM製造業景況指数は48.2に低下、予想の48.4を下回ったこと、中東、ロシアなどの主な産油国による協調減産の観測が後退。減産の実現性は低いとの見方が広がったことなどを受けてDOWN。

2月15日時点で4488.5ドル(セツル)と月初価格より45.5ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、サウジアラビアのジュベイル外相は、同国として石油生産を減らす用意はないとの考えを示したこと、WBMS統計で2015年の銅需要は2014年の11万6000トンのSurplusから2015年は14万6000トンのSurplusと余剰幅が拡大する

などのマイナス材料もあったが、中国人民銀行が全銀行への預金準備率を50ベースポイント引き下げると発表した事、有力産油国のイランが、サウジアラビアなど4産油国による相場安定への行動に支持を表明した事を好感しUP。

3月2日現在、後半スタート価格から164ドルUPの4726ドル。建値57万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

121.95 → 114.95 (円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-5.8%の73万2886台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-4.6%の27万5165台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+0.2%の6万7815戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると輸出は前年比で電気銅が+26.8%の4万8966t、スクラップが-21.9%の1万11367t。

輸入

輸入は電気銅が前年比-59.2%の1673t、スクラップ -18.9%の8597t

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比-6.4%の5万9600t

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)

銅電線出荷量は、前年比-8.6%の5万4100tであった。

■概況

【自動車生産】

1月の四輪車生産台数は732,886台で、前年同月の777,756台に比べて44,870台・5.8%の減少となり、2カ月連続で前年同月を下回った。

1月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

1. 乗用車-628,784台で28,159台・4.3%の減少となり、2カ月連続のマイナス。

このうち普通車は395,936台で29,211台・8.0%の増加、小型四輪車は115,530台で22,444台・16.3%の減少、軽四輪車は117,318台で34,926台・22.9%の減少。

2. トラック-93,908台で16,312台・14.8%の減少となり、9カ月連続のマイナス。

このうち普通車は39,592台で10,129台・20.4%の減少、小型四輪車は23,775台で3,081台・11.5%の減少。軽四輪車は30,541台で3,102台・9.2%の減少。

3. バス-10,194台で399台・3.8%の減少となり、2カ月連続のマイナス。

このうち大型は790台で35台・4.2%の減少、小型は9,404台で364台・3.7%の減少。

1月の国内需要は382,876台で、前年同月比4.6%の減少であった。(うち乗用車328,994台で前年同月比4.4%の減少、トラック52,909台で同6.5%の減少、バス973台で同32.2%の増加。)輸出は前年同月比1.8%の減少。(実績)

【自動車販売】

2月の国内自動車販売台数(軽は除く)は27万5165台で前年比-4.6%。

4か月ぶりマイナス

内 乗用車	-4.1%
貨物	-9%
バス	+37.4%

【住宅着工数】

・平成28年1月の住宅着工戸数は67,815戸で、前年同月比で0.2%増となった。また、季節調整済年率換算値では87.3万戸(前月比1.5%増)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で貸家が増、持家、分譲住宅が減となった。季節調整値については、前月比で持家が増、貸家、分譲住宅が減となった。

・住宅着工の動向については、全体として平成26年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが続いてきたものの、足下では横ばいの動きとなっている。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では2か月連続の減少(前年同月比0.1%減、季節調整値の前月比では6.8%増)。

(貸家)

前年同月比では3か月連続の増加(前年同月比5.3%増、季節調整値の前月比では0.8%減)。

(分譲住宅)

前年同月比では2か月連続の減少(前年同月比5.7%減、季節調整

値の前月比では0.9%減)。

(分譲マンション)

前年同月比では5か月連続の減少(前年同月比19.2%減)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では3か月連続の増加(前年同月比8.9%増)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産 前年比-6.4%の5万9600t

11か月連続マイナス

内需 5万806t -6.2% 15か月連続マイナス

輸出 -21.2% 10か月連続マイナス

銅条 1万8228t -7.7% 9か月連続マイナス

黄銅棒1万4274t +0.1% 3か月連続プラス

底入れの兆し?

【電線】

前年比-8.6%の5万4100t

うち 国内 -5.4% 輸出が -74.7%

通信 +19.2%、電力 +2.6% 電気機械

-9.8% 自動車 -1.8%

建設電販-5.6% その他内需-10.4%

【輸出】

電気銅輸出が前年比+26.8%の4万8966t。

銅スクラップは-21.9%の1万1136t。

【輸入】

電気銅が-59.2%の1673t。

スクラップは-18.9%の6597t。

※後半は明日以降の紙面で掲載させていただきます。

亜鉛建値は6,000円引き下げの25万円、 月内建値平均は25万1,600円。

三井金属鉱業は17日、電気亜鉛建値を6,000円引き下げの25万円と発表し、同日から実施した。月内建値平均は25万1,600円。

17日入電のLME亜鉛相場のセツルメントが1738.50ドル、同日発表のTTSレート113.85円で換算した採算価格は19万7,900円となり、建値と採算価格から見た諸掛かりは5万2,100円となる。

直近6か月の建値推移は次の通り。(単位キロ当たり円、かっこ内は改定日)

・2015年
10月=250(1) 247(7) 271(13) 265(16) 259(21)

平均258.1

11月=253(2) 250(6) 244(11) 238(18)

平均243.8

12月=241(1) 235(4) 232(17)

平均234.8

・2016年

1月=241(4) 229(7) 217(13) 220(19) 226(22)

平均226.0

2月=247(1) 250(4) 244(12) 238(17) 256(23)

平均247.8

3月=250(1) 259(4) 247(9) 256(14) 250(17)

平均251.6

☆お知らせ☆

弊社新聞記者の在籍する管楽器アンサンブルバンド「EMANON(エマノン)」の無料ライブが、3月20日(日)13:30~開場で、神戸市灘区の音楽ホール・里夢(神戸市灘区曾和町1-4-2-B1)にて開催されます。J-POPを中心にアレンジした楽曲を提供し、今年で結成5年目となるバンドであり、今回のライブもジャズやポップスを中心に、大人から子どもまで楽しめる楽曲を提供する予定。お近くまでお出かけの際には、ぜひご覧下さい。

【問い合わせ】里夢:078-821-2140